

平成25年度第3回野菜需給・価格情報委員会消費分科会の概要

1 日時

平成26年3月7日（金）13：30～15：30

2 場所

独立行政法人農畜産業振興機構 南館1階会議室

3 概要

「特にお聞きしたい論点」（資料1）、「最近の野菜の需給・価格動向について」（資料2）、「野菜の消費関連資料」（資料3）、「今回の大雪被害の状況等について」（資料4）、「最近の野菜の輸入動向について」（参考資料2）、「春野菜主要品目における主産県別出荷量」（参考資料4）の説明の後、春野菜の需要・消費動向の見通しについて、意見交換。その概要を小林座長が取りまとめ、各委員の了承を得た上で、3月7日開催の平成25年度第3回野菜需給・価格情報委員会に報告することとなった。

平成26年産春野菜の需要・消費動向の見通しに関する各委員からの意見は以下のとおり。

（1）野菜全体の目下の動向

① 景気、天候等の要因による消費動向（最近の降雪の影響等（商品の調達等を含む））

- ・ 降雪により物流が停止し、店舗への配送の遅れ又は入荷できない事態が発生した。1回目の降雪時には、メディア報道における注意喚起が十分にあったため、前日の買いだめ需要により都心店舗の売上は上昇した。2回目の降雪時は報道が十分に無く、また、物流が麻痺したため、欠品が発生し、全体的に相場高となった。
- ・ 降雪による今後の流通への影響はあまり大きくないと思われるが、一部の品目については作付の遅れにより、出荷の谷間ができるのではないかと懸念している。
- ・ ハウスの倒壊により、修復するための資材を発注したが、6月に入らないと調達できないと聞いている。
- ・ 寒さの影響から、ねぎやはくさい等鍋物に使う野菜が売れている。
- ・ 農家からの直接販売であるマルシェでは、安値感からか一時的に売れ行きが良くなった。

② 震災や原発事故の影響による消費動向

- ・ 一部の児童福祉施設等において、依然、福島産を敬遠する動きがあるものの、店舗及びマルシェにおける販売については、震災による影響は薄れてきている。
- ・ 現在の主力産地は西日本のため、春野菜における震災による影響は少ないが、今後東日本産の野菜が流通した際に問い合わせが増える可能性あり。

③ 高値傾向、個食化・簡便化傾向等の影響によるカット野菜・冷凍野菜（調理品を含む）の消費動向（冷凍野菜は、農薬混入事件の影響等を含む）

- ・ カット野菜は前年比2桁の伸びがある。最近では野菜の価格に関係なく、調理時間を短縮するためなど、カット野菜の販売量は増加する傾向にある。
- ・ 業務筋では調理現場の人件費の抑制を図ろうとするところを中心に、カット形態での仕入が増えている。また、カット野菜製品については、スーパー、コンビニのほか、ドラッグストアも加わり販売チャンネルが広がってきている。
- ・ はくさいについては4分の1及び8分の1カット、ざく切りで店頭で陳列すること

で、個食化に対応して販売している。他の大型野菜についてもカット販売が主流であり、今後も少量品の品揃えを強化していく予定。

- ・ 冷凍野菜については、1月の売上は前年より10%以上下回ったものの、2月は前年をやや下回る程度で影響は薄れてきており、今後は例年どおり推移することが予想される。

④ ①や③を踏まえた野菜全体の販売状況

- ・ 高値で推移している品目については、カット売りをするすることで、手頃な値段で提供していきたい。
- ・ 都心店舗については、カット売り等の少量販売のニーズが今後も強まると思われる。

⑤ 消費拡大への取組状況及び今後の予定

- ・ スーパーの消費者に最も近いパート社員に対して、定期的に産地から生産者を呼んで販売している野菜の理解を深めるための研修を行い、販売力の強化につなげている。具体的には販売する野菜について試食をしながら知識を習得し、その知識を店舗におけるポップ作成（値段だけでなく、新たなメニュー提案、保存方法等）に活かしている。
- ・ 産地フェアを例年の倍に増やし、旬の品目を提案し、消費者と産地の距離を近づけていきたい。
- ・ 調味料メーカーとコラボレーションし、野菜と調味料を並列で陳列することで、セット販売を推進する。

(2) 春野菜主要6品目（春キャベツ、春だいこん、たまねぎ、春夏にんじん、春はくさい、春レタス）の今後（4～6月）の見通し

① 全体（主要6品目）の傾向

- ・ 秋口の台風の影響による播種の遅れや今回の大雪の影響で定植の遅れが見られるものの、一部の産地を除いて順調な出荷が見込まれる。

② 春キャベツ

- ・ 降雪の影響で、茨城県産、群馬県産の定植が遅れたため、出荷時期が遅れる可能性がある。
- ・ 愛知県産は、台風が定植1週間後に襲来したために植え直しを行ったため、5～6月の出荷量が減少する可能性がある。

③ 春だいこん

- ・ だいこんは、千葉県産、神奈川県産が降雪や低温の影響で生育が遅れているが、今後の天候次第では、出荷量は平年並みとなる見込み。
- ・ 消費が伸びない時期で、1本での販売は難しいので、カットして販売する。その際、首と先の部分の味の違いを伝えていく。また、和食が流行るかもしれないので、新たなメニュー提案をしていきたい。

④ たまねぎ

- ・ 不作であった北海道産の貯蔵たまねぎが終了期を迎え、佐賀県産等の府県産たまねぎの生育が順調であることから、価格は落ち着いていくと見込んでいる。
- ・ 業務用において、愛知県産の動向がつかめていない中、中国のたまねぎの産地は雲南省となるが、高値を提示されている。また、ニュージーランド産のたまねぎについても強気の価格を提示されている。

⑤ 春夏にんじん

- ・ にんじんは、徳島県産の生育が順調で、大きいサイズのものが中心の出荷となり、価格は落ち着くと思う。

⑥ 春はくさい

- ・ 今回の降雪の影響で長野県産（6月）が遅れるのではないか。また、春はくさいが遅れて端境期ができることを懸念している。
- ・ 業務用では、春先は、秋冬もので対応するところが多い。

⑦ 春レタス

- ・ レタスは、静岡県産が10月の台風の影響で定植が遅れたため、出荷時期がずれ込む可能性がある。
- ・ 茨城県産が降雪の影響で、4月下旬から5月上旬出荷分の定植ができなかった。ゴールデンウィーク前後に影響がでる可能性がある。
- ・ 長野県産も定植できていない状況にある。
- ・ 業務用レタスについて、降雪等の影響で作付ができず、ゴールデンウィーク前後に国産品が確保できない可能性をみこして、米国との交渉を念頭においている業者もいる。

(3) その他

① 消費税アップ（8%）の影響と今後の対応

- ・ 消費税が3%から5%になった時は、3月に駆け込み需要があり、4月以降売り上げは伸びず、年間で2%減少した。今回のアップについても、今後の動向を注視していきたい。また、4月に入り、青果物や日配品の特売等で集客を図っていきたい。
- ・ 価格表示について、本体価格と税込み価格を併記することで、値上がり感を薄める工夫を行う。
- ・ 加工・業務用野菜については各店舗へ少量ロットで毎日配送をしているため、増税による影響は少ないと思われる。

② 主要6品目以外の野菜で、販売戦略として特に注目している品目の動向

- ・ サラダ向けのスナップえんどうは、前年比2桁以上の伸びを示している。
- ・ 春に向けて、芽もの野菜や、アブラナ科の各種つぼみ菜の販売を強化していきたい。
- ・ ズッキーニについては、これまでは夏中心に国産品の販売を行っていたところだが、今冬、輸入品を陳列したところ、売れゆきが良かったため、今後は年間販売していきたい。
- ・ 外食レストランでは、景気回復もあり、単価アップも見込めるために、品質の良い食材を調達している。

③ 輸入野菜（生鮮野菜及び冷凍野菜）の動向

- ・ 納品先から納品単価が提示されている品目で、国産野菜では対応できない場合に、輸入野菜で納品している。
- ・ 1袋98円等の低価格帯商品の品揃えとして、輸入野菜を一部品目で使用している。
- ・ 業務用レタスについて、11月から台湾からの輸入が始まり、年末までは国産も高く順調な取引がされたが、年明けに国産が増えたことから若干余り気味となった。輸入は2月で終了するとみている。